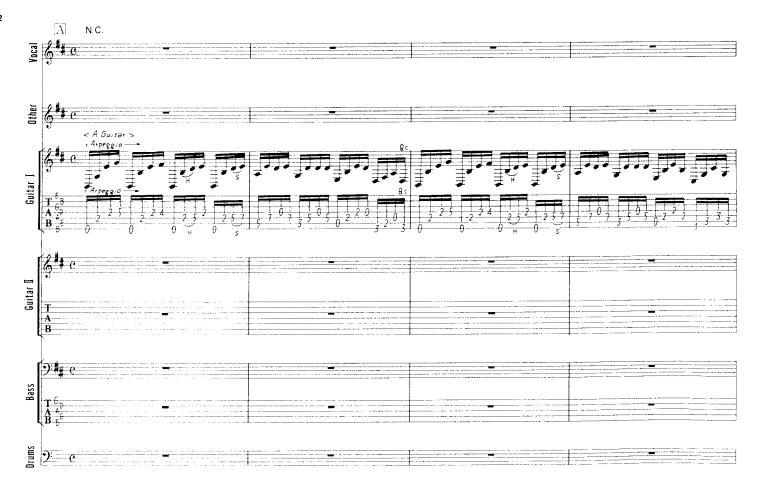
A CHANGE OF SEASONS

ア・チェンジ・オブ・シーズンズ Words by Mike Portnoy/Music by Dream Theater





























I 2





















2 I





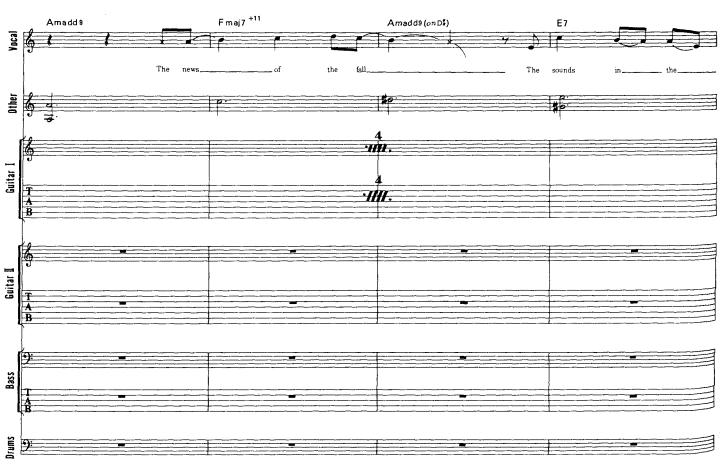








































Tempo Change N.C. Guitar I Guitar 🏻 Guitar I Guitar I









4.











Nocal Ç[#]m Of her Guitar I Guitar 🏻 Bass Nocal Guitar I Guitar 🎚 Bass























































































8 r















FUNERAL FOR A FRIEND~LOVE LIES BLEEDING

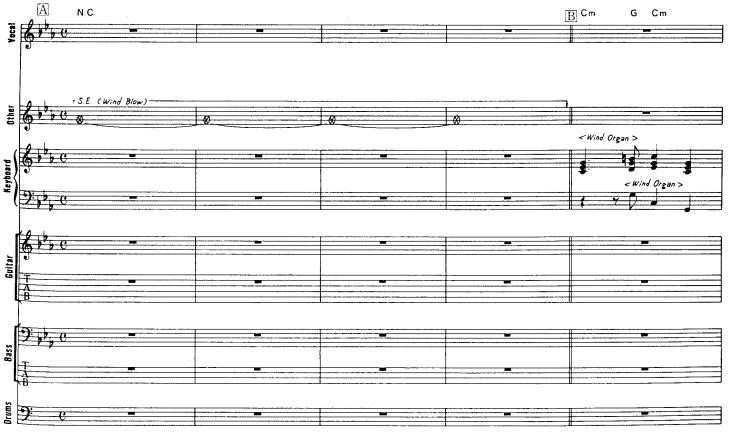
葬送〜血まみれの恋はおしまい Words by Bernie Taupin/Music by Elton John

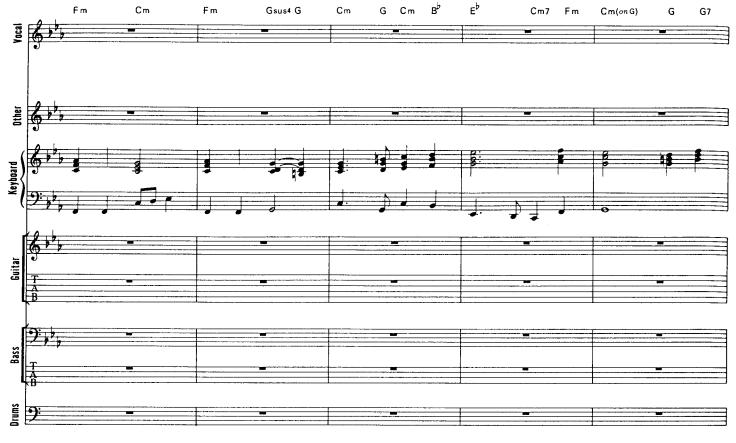
組曲風なナンバーで、②以降のヴォーカル部は原曲に近い形で演奏されているが、前半から中盤にかけてはイントロと言ってしまうには長すぎるほどのインストルメンタル部分がある。まずは、キーボード・ソロから始まる。 (A は S.E. (効果音) として風の吹き荒れるような音が使われていて、シンセサイザーにプリ・セットされた音色を、スイッチングで操作しているのだろう。 (目)からは左右両手ともウィンド・オルガンのような音色で和音を弾いていく。 フルートに近い音色だ。ここでも「風」の効果音は流れ続けていることに注目しておこう。

©は、ウィンド・オルガンの音がまだ伸びている(持続している)うちに、ピアノが両手で弾かれる。ウィンド・オルガンの方をダンパー・ペダル(右足)で音を伸ばしておき、そのすきに両手を別の鍵盤に移してしまうわけだ。今度は、このピアノのコードをダンパー・ペダル(左

足)で伸ばしておいて、右手はオルガン、左手はストリングスへとキーボードをチェンジする。ストリングスかオルガンかのどちらかには、先ほどの「風」のイメージを引き継ぐようなホワイト・ノイズが混ぜてある。 回まではこのままで、 回の最後からエンディングまではピアノだけになる。

△から回まではキーがCmで、巨からはキーがAmになる。巨の頭のコードがA(メジャー)になっているが、あくまでもキーはAmなので注意しておこう。Mから最後までは、キーがAメジャーだ。また、テンポ・チェンジが指定してあるところは回の7小節目、団、回だけだが、Nまではリハーサル・マークごとに微妙にテンポが変わっているので注意しておこう。ギターは、国にボリューム奏法が使われている。アーミングやチョッピングも使うので、ペダルで操作できると便利だ。





























































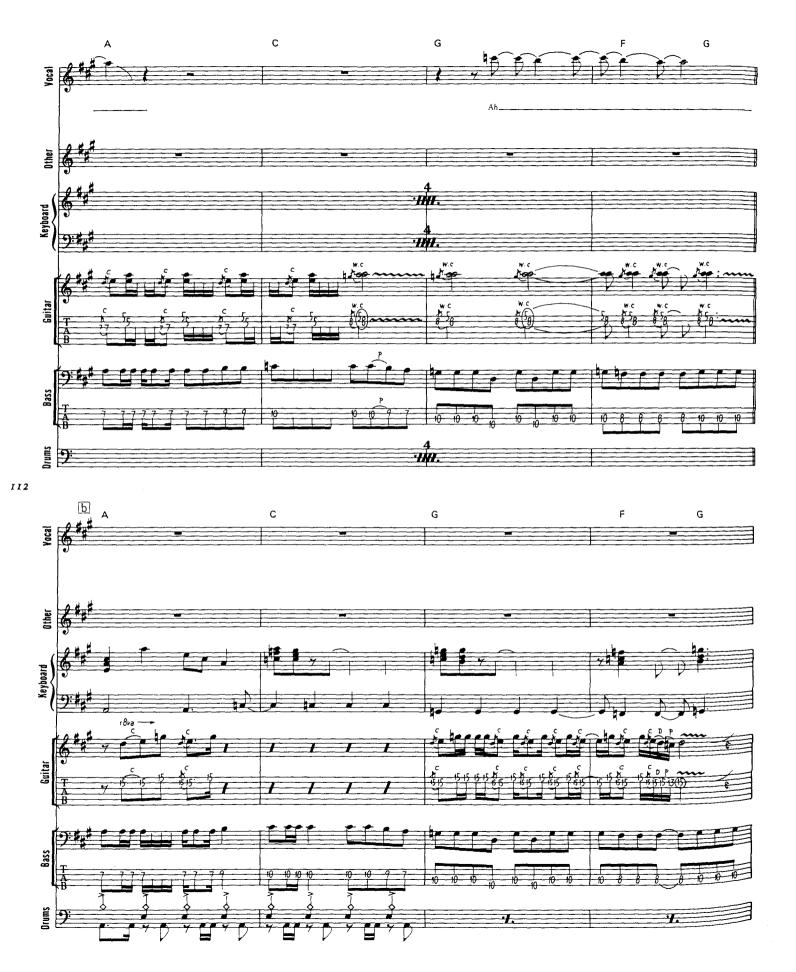








.





4.3



PERFECT STRANGERS

パーフェクト・ストレンジャーズ

Words & Music by Ritchie Blackmore, Ian Gillan and Roger Glover

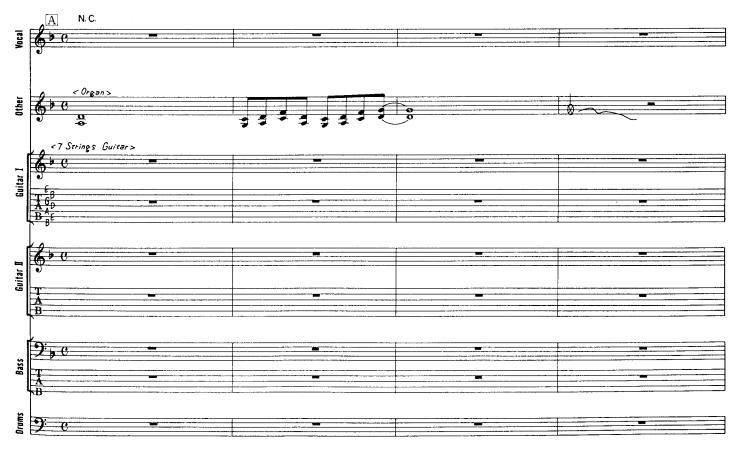
ディープ・パープルの曲で、ドリーム・シアターらしい「アレンジ部分」を除いてはほぼ原曲通りだ。この曲での注意点は、前述の"7弦ギター"と変拍子ということになる。

ギターの五線譜の方は、オクターヴ下げて弾く表示にしてあるので、その表示さえはずせば普通の6弦ギターで弾けるようになっている。ただし、TAB譜の方は弦を1本間違えたりしないように気を付けて欲しい。また、⑤と□、□、氐、L、Mでは、4分の4拍子と4分の5拍子が1小節ごとに入れ替わるという変拍子になるので、くれぐれもタイミングには気を使っておこう。また、この変拍子の部分に限って転調が次々と行われていく。⑥はキーがDm、□はキーがAm、□~MまではキーがEmになっている。特に、氐からMまではギター・ソロになっているので、普通の神経では符割が理解できなくなってしまう。4分の4

と4分の5を足して、2小節を大きな4分の9拍子のような捉え方をすると、フレーズの一区切りが見えてくるだけでなく、小節やパート(リハーサル・マーク)の進行が見えてくると思う。

キーボードはオルガンがメインで、かなりディストーションのかかった、"ジョン・ロード(ディープ・パープルのオルガン奏者)"そのままの音色だ。勿論、レスリーというロータリー・スピーカーにつないだトーンなので、歪んでいながらも回転感が必要で、おまけに「速回転」と「遅回転」の2種類を切り替えながら適切に弾かなくてはいけない。

区からのギター・ソロは、ワウ・ペダルを常にコントロールしながら弾いていて、区の6小節目はアームを揺らしたフランジング・フレーズ。 この2&3小節目はタッピングを使っていて、2弦と1弦の16fは右手での音になる。



© Copyright 1984 by BLACKMORE MUSIC LTD. / RUGGED MUSIC LTD. / PUSSY MUSIC LTD. Rights for Japan assigned to WATANABE MUSIC PUBLISHING CO., LTD. / NICHION INC.





























THE ROVER~ACHILLES LAST STAND~ THE SONG REMAINS THE SAME

流浪の民〜アキレス最後の戦い〜永遠の詩 Words & Music by Jimmy Page and Robert Plant

数々の名曲の中からあまりカヴァーされたことのない曲を選んだという、レッド・ツェッペリンのカヴァー・メドレー。まず〇一〇のイントロとして用いた「The Rover」部分であるが、ここのギターはスタッカート&クォーター・チョーキングをしっかり表現することがポイントだ。特にクォーター・チョーキングは使う部分によってニュアンスが大分違うので、原曲を良く聴いて雰囲気を掴み取って欲しい。

□の1小節手前でテンポ・チェンジし、「Achilles Last Stand」となる。ここからのベースは休符を絡めた16分のフレーズが頻繁に出てくるので、正確なリズムで弾けるようにしっかり練習しよう。ピックで弾く場合は休符部分で空(カラ)ピックを上手く使うと良いだろう。 巨以降の唄部分(巨、⑥、Ҝ、㎞)のギターはギター本体のボリュームか、ボリューム・ペダルを用いて音量、及び歪みを下げてプレイしている

(エフェクターで歪ませている場合は、そのエフェクターの前にボリューム・ペダルを接続しなければ歪みが下がらないので注意しよう)。また、同じく恒以降ではディレイ・タイムを1拍半の長さに設定したロング・ディレイを要所要所で使っている(ディレイを使う部分は譜面上に記してある)。リピート回数とエフェクト・レベルを上げすぎると、とんでもなく訳の分からないフレーズになってしまうので注意しよう。

○ & Sは一時的にテンポ・チェンジしている。この部分のギターは 譜面では表現し辛い非常に曖昧なリズムでプレイしているので、記譜 されたリズムはあくまで目安にし、各自の自由なフィーリングで弾い た方が結果は良いかも。

曲の後半(図以降の「The Song Remains The Same」部分) は各パートともスピード感を出してノリ良くプレイしよう。









































.



























